・西南学院大学・
図書館報

No. 43
1969年10月1日発行
福岡市西新町
西南学院大学図書館

図書館利用の画期的推進をはかる

―― 図書館長就任にあたって ――

清田正喜

新しい図書館が竣工してから約1年の間には、次第に設備も整い、利用者も新館になじんできたように思います。

このたび、わたくしは坂本先生のあとを承けて、図書館長に就任しました。微力ではありますが、全力を尽くして任務にあたり、大学図書館の一層の前進を図りたいと考えております。

図書館は大学の心臓であるといわれますが、大学が学問研究と教育の場であるからには、それに直接必要不可欠な文献資料を提供するという重要性からみても、まことに当を得たことばであると思います。わたくしは、今後さらに図書館を名実ともに大学の心臓として、ひいては大学の象徴であらしめたいと念願しています。そのためには、まず教授の研究教育や学生の学習に必要適切な文献を十分に整備することが肝要であることはいうまでもありません。現在、図書館には150,000冊の図書、900種の雑誌、700種の大学論集など、かなりの文献が所蔵されていますが、まだまだ十分とはいえません。ことに最近は情報時代といわれるだけあって、世界における文献の量はじつに莫大なものとなってきています。この中から本学の研究と教育に必要な文献をできるだけ収集して、図書館蔵書を真に有効なものにしていきたいと思っています。次にはその利用面の体制です。どれほどすぐれた施設や文献があっても、それが十分に活用されないでは、いわば宝の持ちぐされにすぎません。この図書館は、十数年前に旧館が建設されたときから、ほとんど全面的な開架制度を採用して、利用者の便宜を図ってきたのですが、わたくしはさらにそれに加えて、活発な文献情報活動をも展開していきたいと考えております。広くあらゆる分野の書誌・索引・目録類を完備するとともに、職員の中に情報案内サービス係をおいて、文献資料に関する徹底したサービスを提供する、また、情報提供の重要な一翼をになっている文献複写の拡充を図るなど、情報時代に即応した活動こそ今後の図書館の方向でなければならないと思います。次に小さなことのようですが、読書の場の雰囲気を図書館の中にもっとかもし出していきたいと思っています。とかく騒々しいわたくしたちの環境の中で、図書館は少なくとも、静かな落ちついた気持で読書にふけり得る場所でありたいと念じております。

最近、図書館の近代化ということが叫ばれていますが、わたくしは以上のような構想によって図書館利用の画期的推進を図ることこそ近代化であると信じて、そのためには、努力をおしまない覚悟でおります。どうか皆さんのより一層のご協力とご援助とを切望いたします。

本の受入れから配架まで

図書館業務案内シリーズ その1

図書館というところは、非常にたくさんの本があり、その蔵書のどの部分についても、できるだけ早く、しかも効果的に利用できるようになっていることが必要なのです。そのために図書館では、図書を分類したり、目録をつくったり、貸出ができるように装備をしたりする整理業務がなされているわけですが、ここではその整理業務の流れの概要を、要点だけご紹介してみます。

(受入れ) 図書館で受入れられる図書には、購入されるものと寄贈されるものがありますが、大部分が購入の図書です。こうした購入図書のうち、各学部・学科の専門課目に関連したものやカリキュラムに直接関連のある図書は、それぞれの担当教授が書店の新刊案内や、見計い図書の中から選択されて購入がきまります。一方カリキュラムに直接関連のない図書は、図書館の図書選択会で購入がきめられます。学生の皆さん方からも、しばしば購入希望図書の申込みがだされていますが、こうしたものもそれぞれの担当教授や、図書館の図書選択会などで検討され、購入の可否がきめられているのです。大体ご期待どおりの回答がでているのではないかと思います。

購入がきまった本のうち、高価な本や、限定版などについては、落乱丁や汚れなどの事故がないかを一応確かめてみます。これを図書館では検収といっています。こうした印刷や製本の過程で生じた事故図書は、洋書にくらべて日本の図書の方が数倍多いようです。

(分類) 本学の図書館では、整理はまず分類からはじめられます。図書館の蔵書は、同じ主題のものは同じところに、例えば日本文学の本は日本文学のところに、百科辞典は百科辞典のところにというように、図書を主題または形式の似ている程度に従って分類されます。この分類されたものが、体系的に配列されるような分類表によって、特定の場所に位置づけることが分類の作業であり、これは記号や符号で表わされますが、これに図書番号が加えられて、その図書の請求番号が決定されます。

ではどのような分類表を規準としているかといいますと、私達の図書館では、日本十進分類法(略してNDC)の第6版が採用されています。ただし、キリスト教の分類と英米文学の洋書の分類については、本館独自の分類法を採用しています。このNDCの分類表は館内の各所や、利用案内にもその表がだされていますが、わが国の大学図書館で、このNDCが採用されているところは、全体の80%に及んでいると言われています。

(登録・装備) 分類がすんだ図書は、次に図書原簿に登録されて、図書館の蔵書としての登録番号が与えられ図書に受入印が押されます。こうして、図書館の正式な財産となるわけです。それがすむと、図書ラベルがはられたり、ブックポケットやカードがつけ加えられたり、返却期限表がはられたりします。このようなことを図書の装備と呼んでいます。この装備の段階で、図書館の蔵書として識別されるようになるとともに、図書そのものも一応利用ができる状態になってくるのです。

(目録) 最後に図書の目録が作成されますが、本学のように開架制を採用している図書館でも、目録は図書館利用の重要な鍵となるものであり、利用者は目録を通して、著者や書名の知られている特定の図書や、ある主題についての図書が所蔵されているかどうかを調べることができるので、目録はどうしても必要です。

目録の作成も分類と同じように、一定の規則がきめられており、日本目録規則 1965 年版を大体基準としています。本学図書館では、和書は著者名・書名・分類の各目録が、洋書は著者名および分類目録が作られていますが、これらの各目録は、著者名を主記入とする基本目録を一枚のカード原紙にタイプし、これを印刷して、必要枚数作成します。目録のみ方や引き方についても、図書館利用案内に記載されていますのでご覧ください。

(配架) 目録の作成がすんだ図書は、一応点検のうえいよいよ閲覧室内の新刊棚に十日間展示され、それぞれの所定の書架に並べられ、利用者の閲覧に供されることになります。以上は図書の整理を、受入れから配架まで、甚だ表面的な簡単な紹介ですませましたが、これにともなう会計上の伝票の処理もなかなか大変な仕事です。そうしてこれらのすべてが、図書館をよりよく利用してもらうための奉仕活動につながっているわけです。

(伊藤)

ニュース

＜図書館長の更迭＞

前図書館長 坂本重武 44. 7. 31 退任
新図書館長 清田正喜 44. 8. 1 就任

＜新図書館委員＞ (44. 8. 1付)

神学部		G. H. ヘイズ
文学部	(専門課程)	片岡章
商学部		後藤泰二
経済学部		川島信義
法学部		岡村堯
教養部		戸星善宏
短期大学部		森川和子

＜図書館委員会＞

44. 5. 8 (審議事項) 昭和44年度図書費配分案について、その他。

44. 6. 19 (審議事項) ① 図書館委員 (英・仏) について ② 国連寄託図書館顧問について ③ 別途積立金処分案について

＜研修・出張＞

日米大学図書館会議 44. 5. 15～19
(会場：東京プリンスホテル) 日米両国間の図書館相互協力について協議。坂本前館長出席。

私立大学図書館協会西地区部会 44. 6. 10
(会場：武庫川女子大学) 事業計画案および規則改正案審議。山下司書長出席。

私立大学図書館協会総大会 44. 7. 14～16
(会場：立命館大学) 事業計画案、役員校の選任案その他の審議。研究発表ならびに講演「大学改革と図書館」山下司書長出席。

＜図書館実習＞

44. 7. 11から7. 24まで12日間、九州学園短大生の図書館学実習が本館で行なわれた。

新規購入雑誌

44年4月から次の雑誌が新たに購入された。

○bit (月刊)　○地質学論集 (季刊)
○英語学 (不定期刊)　○現代数学 (月刊)
○教育音楽 (月刊)　○民事訴訟雑誌 (年刊)
○音楽教育研究 (月刊)　○社会問題月報 (月刊)
○セールスマネージャー (月刊)　○海 (月刊)
○Archiv für Rechts und Sozialphilosophie (Q)
○Cahier de Topologie et Geometrie differentielle (4 nos.)
○Cambridge Historical Journal (3 nos.)
○Schmollers Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Volkswirtschaft (B—M)
○Weekly Law Reports (W)
○Scotish Journal of Political Economy (3 nos.)
○Southern Economic Journal (Q)

週刊誌の増加

サンデー毎日、週刊読売その他の週刊誌が新たに備えられた。学習の疲れ休めに、活用していただきたい。

図書館研究会の活動

さる4月に有志の学生が集まって発足した図書館研究会は、その後、地道ながらも研究活動を進めている。6月21日 (土) には午後1時から3時まで、「国際連合」「韓国における国連」の映写会を催おし、また大内先生から国連についてのお話しがあった。30数名の出席者があって有意義な集会であった。同会は、今後もこのような対外活動を活発に行なっていくとのことである。

告知板

○ **試験期の開館時間延長**　前期試験のため、9月9日 (火) から試験終了前日 (10月3日) まで、次のとおり開館時間を延長しています。
学習室　午前8時30分～午後9時
なお、開架閲覧室は平常どおり　午前9時から午後6時までです。

○ **休館**　前期試験終了後、10月6日 (月)、および7日 (火) の2日間は、大学休業により休館いたします。

○ **大学祭期間中の開館時間**　きたる11月上旬の大学祭の期間中は、午後5時に閉館しますのでご承知ください。

○ **辞書類の移動**　2階・3階の開架閲覧室に備付けられている辞書類は、これまで一般図書の並んでいる書架の最初においてありましたが、より見やすくするため、閲覧席側の壁に移動しました。

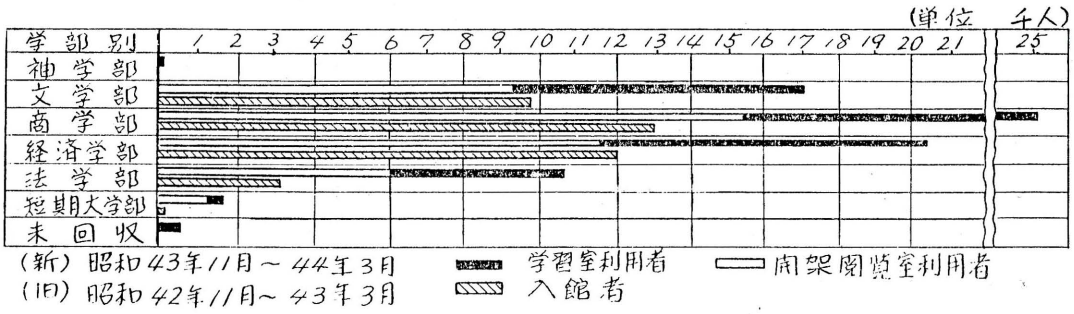
昭和43年度　図書館統計

● どんな内容の本がどれだけ増加したか

区分＼分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	計
和	414	673	495	4,205	501	245	872	308	196	820	8,729
洋	52	169	131	880	97	61	233	26	302	1,318	3,269
計	466	842	626	5,085	598	306	1,105	334	498	2,138	11,998
前年度	611	1,455	756	5,144	774	325	900	470	1,173	2,625	14,233

● それでは、この一年間、図書館はどれだけ利用されたか

<新旧図書館入館者数比較表>



昭和43年度入館者数(学生)

学部別	昭和43年度 学習室	昭和43年度 開架閲覧室	前年度
神学部	5	10	8
文学部	7,675	24,345	28,016
商学部	9,828	32,392	32,617
経済学部	8,760	26,747	30,333
法学部	4,565	13,851	8,180
短期大学部	371	1,403	285
その他	6	75	56
計	31,210	98,823	99,495

昭和43年度館外貸出人員(学生)

学部別	昭和43年度	前年度
神学部	2	7
文学部	6,366	6,795
商学部	7,460	6,617
経済学部	6,514	6,580
法学部	2,499	1,242
短期大学部	638	88
その他	12	28
計	23,491	21,357

昭和43年度館外貸出図書冊数(学生)

分類別	昭和43年度	前年度
0 総記	714	529
1 哲学	3,173	2,644
2 歴史	1,180	1,081
3 社会科学	13,729	11,099
4 自然科学	726	498
5 工学	322	167
6 産業	3,320	3,071
7 芸術	1,296	1,060
8 語学	979	989
9 文学	8,341	8,191
雑誌	579	675
計	34,359	30,004

奉仕係より

○ 昭和43年度は待望の新図書館が完成したため、諸設備は快適なものに一新されるとともに、閲覧座席数は旧館の約2倍に拡大されました。また新館完成にともない、短大図書館および学研資料室を併合して資料が急激に増加しました。そのほか指定図書の購入や休暇中の貸出冊数の増加など多くのできごとがありました。それは利用面にも大きな変化をあたえています。そこで、前年度と比較対照するために、特に、新図書館完成後の11月以降を図表にして、利用状況をあらわしてみました。それによりますと、新図書館を利用した人は総数約76,000人、前年度の約2倍の人達が利用したことになります。試験期には、何度か満席おことわりしなければならなかったこともあり、いかに利用者が増加してきているかがうかがわれます。

○ 新図書館も完成し、いよいよその活動を充実させたいと思っています。利用手続についても、もっと簡単な方法にして欲しいとのご希望がありますが、それには利用者の皆さんによく規律をまもっていただくことが一つの近道かと思います。ご協力をお願いします。

(品川)